

2009年11月22日
徳島新聞

最先端の研究に
高校生興味津々

徳大で科技セミナー

国際科学技術財団の「やさしい科学技術セミナー」が21日、県内では初めて徳島市の徳島大学蔵本キャンパスであり、県内の高校生ら60人が最新の研究に触れた。

特定のタンパク質が細胞の核にたまり、認知症のような症状が出る「ハンチントン病」治療の現状を、徳大大学院の重永章助教（有機化学）が解

説。有機化学の技術を用い、原因タンパク質を核の外へ運び出す物質の開発が進んでいることを紹介した。混ざり合った、さまざま



有機化合物を取り出す実験を熱心に見る高校生＝徳島大学蔵本キャンパス

まな化合物の中から、目的の有機化合物を取り出して分析する実験も実施。有機化学の研究で頻繁に使う手法で、高校生はメモを取りながら興味深そうに見入っていた。

友人と参加した城南高校2年、斉藤くるみさん（16）は「いろいろな実験を重ね、治療法の開発に近づいていく研究のおもしろさがよく分かった」と話していた。

セミナーは1989年から毎年、全国で開かれている。



JAPAN PRIZE